

小説の学習とは

書いていないものを読み取る。

「構造」「象徴」「テーマ」

単元目標

小説「羅生門」の構造を説明できる。

わからない語を主体的に辞書で引くことができる。

羅生門の初期設定

○下人の境遇を押さえる（下人はどういうキャラ設定？）

【年齢】 13歳？ 20歳？ 30歳？ 40歳？

【性別】 【職業】 【身分】 【性格】 【生活】 【家族】 【服装】 【装備】 【戦闘力？】

① 下人…… 【職業】 身分の低いもの。主人に仕えているもの。使用人。

② 男…… 【性別】 男

③ そこで、日の目が見えなくなると、誰でも気味を悪がって、この門の近所へは足踏みをしないことになってしまった…… 【性格】 下人は平気に訪れることがでる⇒豪胆

④ 紺の襦…… 【服装】 しっかりした服装 ぼろぼろでは無い まだまともな生活はしていた

大きなきび…… 【年齢】 若い

⑤ その主人からは、四、五日前に暇を出された…… 【職業】 無職 失業 【年齢】 若いから真っ先にクビにされる。

永年、使われていた…… 【職業】 4〜5年？ 5〜6年？ 12歳頃から使われていたとなると、今は17〜19歳？

行き所がなくて…… 【家族】 頼れる家族はいない。

Sentimentalism…… 【性格】 【年齢】 若さゆえの無力感

いわばどうにもならないことを、どうにかしようとして…… 【生活】 【職業】 どうにもならない↓仕事を得ようにも得られない。食べ物を手に入れる手段が無い。貧窮している。

⑦ 下人は、手段を選ばないということを肯定しながらも、この「すれば」のかたをつけるために、当然、そのあとに来るべき「盗人になるよりほかにしかたがない。」ということ、積極的に肯定するだけの、勇気が出ずにいたのである。…… 【性格】 モラルがある。簡単に悪いことを犯せない。

⑧ 山吹の汗衫に重ねた、紺の襦…… 【服装】 結構いいものを着ている↓職があった時は、まともな服装だった。⇒まともな職業についていた。

⑨ 聖柄の太刀・わら草履…… 【職業】 【装備】 【戦闘力】 もと武士？ 単なる庶民、しかも貧しいものは裸足だった。

○ 5 W 1 H when where who why what how

【what】に対する【why】を見つける。 ぼんやり系①②③ 動き系④⑤⑥

① 暮れ方……【when】夕方 日が沈むころ

一人の下人……【who】

羅生門の下……【where】町の外れ

② 雨やみを待っていた。……【what】①

この男のほかに誰もいない。……【how】一人だけ

きりぎりす……【where】秋

大きな円柱に、きりぎりすが一匹とまっている。【how】一人だけの象徴表現

それが、この男のほかに誰もいない。【how】一人だけ さびれている↓③

③ この二、三年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいう災いが続いて起こった……【where】さびれた時代

仏像や仏具を打ち砕いて、その丹がついたり、

金銀の箔がついたりした木を、道端に積み重ねて、薪の料に売っていた……【how】モラルの欠如

引き取り手のない死人を、この門へ持ってきて、捨てていくという習慣さえてきた……

【how】悲惨な状況 死体さえぞんざいな扱い

④ 刻限が遅い……【when】夕方の遅い時間帯

ぼんやり、雨の降るのを眺めていた。【what】②

⑤ 平安朝……【when】平安時代末期 794～1185 平安時代は398年間

申の刻下がりから降り出した雨は、いまだに上がる気色がない……【when】夕方5時頃？

今この下人が、永年、使われていた主人から、暇を出された……【why】

雨に降りこめられた下人が、行き所がなくて、……【why】途方に暮れていた。…【how】

何をおいても差し当たり明日の暮らしをどうにかしようとして……【why】明日食べる

ものが無い

いわばどうにもならないことを、どうにかしようとして……【why】貧窮している。切

羽詰まっている

いわばどうにもならないことを、どうにかしようとして、とりとめもない考えをたどり

ながら、さつきから朱雀大路に降る雨の音を、聞くともなく聞いていたのである。……

【what】③

⑧ 大きくくさめをして、それから、大儀そうに立ち上がった……【what】④

もう火桶が欲しいほどの寒さである……【when】【why】秋の終わり頃 春の初めだった

ら「まだ」

下人は、手段を選ばないということを肯定しながらも、この「すれば」のかたをつける

ために、当然、そのあとに来るべき「盗人になるよりほかにしかたがない。」ということ

を、積極的に肯定するだけの、勇気が出ずにいたのである。……【why】

⑨ 下人は、首を縮めながら、山吹の汗衫に重ねた、紺の襖の肩を高くして、門の周りを見

回した。【what】⑤

雨風の憂えのない、人目にかかる恐れのない、一晚楽に寝られそうな所があれば、そこ

でともかくも、夜を明かそうと思った……【how】【why】今日は食べ物は無くても何とか

やっていける。

上なら、人がいたにしても、どうせ死人ばかりである。……【how】「死体」や「死」に

慣れている↓極限状態？

下人はそこで、腰にさげた聖柄の太刀が鞘走らないように気をつけながら、わら草履を

履いた足を、そのはしごのいちばん下の段へ踏みかけた。【what】⑥